

パスでできる！

がん診療の地域連携と患者サポート

岡田晋吾，谷水正人 編

＜書評者＞ 望月英隆（防衛医科大学校病院病院長）

この度、医学書院から岡田晋吾・谷水正人両氏の編集による、『パスでできる！がん診療の地域連携と患者サポート』が刊行された。

がんの治療は、手術や抗がん化学療法のみで成り立つものではなく、手術前後の各種補助療法、病態・病勢把握のための定期的な検査や緩和医療等も含んでいる。ここでいう緩和医療とは、進行再発時におけるがん性疼痛への対処は無論のこと、診断が下された時点から求められる心理面でのケアから終末期医療までをも含む極めて広範囲の医療である。これらを1つの医療機関で不足なく行うことは至難の技である。また、近年は患者さんの価値観も多様化し、医療を受ける場所として、医療機関ではなく自宅を選択する方が増えている。このような新たな流れの中では、がん治療にかかわる医療機関が、がん患者さんごとに一貫した治療方針を共有し、それぞれ

の持つ機能に応じて連携を保つことが極めて重要である。国もがん治療については政策として、均てん化とともに、地域連携によるきめの細かい治療体制の整備を推し進めている。

本書は、胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、乳がんのいわゆる「5大がん」に、前立腺がんを加えた6種類のがん治療に関する地域連携について、懇切丁寧なそのシステムの構築と運用などについて、パスを中心的ツールとして用いたノウハウを解説している。「地域連携に必要な要件」や「ネットワーク構築の類型化」、「地域連携室の役割」といった項目では連携立ち上げの際に重要な要件が詳述されているし、「緩和ケアと地域連携」、「がん患者の退院調整」、「かかりつけ医の役割と連携」、「保険薬局の役割と課題」といった項目では、地域連携医療を行ううえで不可欠な医師とコメディカルが果たすべき役割が、図説を多用して

わかりやすく解説されている。

編集の岡田氏は、長く函館を中心とした地域医療の第一線で活躍する中で、パスを有効に用いることによって基幹病院と診療所などとの連携システムを立ち上げ、きめ細かで評判の良い地域医療連携を函館地区に構築しているこの道の第一人者である。一方、谷水氏は、がん政策医療ネットワークの四国ブロック基幹医療施設で、また愛媛県のがん診療連携拠点病院である四国がんセンターの統括診療部長としてがん診療を行う中で、地域連携の重要性を日々感じながら、その構築と整備に尽力しているその道のエキスパートである。また、各項目の執筆陣も実際に地域連携の中でがん診療を行っている方々ばかりで、経験に裏付けられた記述には極めて強い説得力がある。

がん診療にかかわるすべての医療関係者必読の書であると思う。

●A4 頁160 2009年
定価4,200円
(本体4,000円＋税5%)
[ISBN978-4-260-00883-9]
医学書院刊